

学校だより 2月号



生成AIの時代に

校長 柴田 雅之

とても寒い日が続いていますが、大勢の子どもたちが休み時間に外で元気に遊んでいます。2年生と6年生が仲良くドッジボールをしています。4年生が長縄跳びをしています。そんな中、飼育委員会が世話をしている亀のところにやってきて不思議そうな顔をしている子たちがいました。亀の姿はなく棲み処となっている水槽の表面には氷が張っています。「寒くないのかな」「息ができるのかな」「水の中で冬眠しているのかな」優しさと好奇心から心配と疑問が浮かんでいるようでした。中休みの子どもたちを見ていると心が癒されます。

2月3日は節分です。千代ヶ丘小学校では毎年、鬼が出現します。豆をまくことはしていませんが、心の中で豆をまいて鬼を追い払い、これからの生活がより良いものになるよう、みんなで願いたいです。

さて、ここ1、2年で生成AIが、私たちの生活の中に入ってきています。私もつい最近まで、携帯で何でもすぐに検索できて便利だと思っていましたが、会話のようにやり取りしながら、いろいろなことを教えてくれるAIに驚きつつ、少しずつ利用しています。この学校だよりも作ってくれるのかなと思いつつ、やめておきました。ただ、こんな質問をしてみました。「AIが進化し、その活用が進む未来において、人間に必要なのはどんな力ですか？」するとまず、「いい質問ですね」と褒められました。そして、①問いを立てる力（これからは答えを出せる人より良い問いを生み出せる人）②意味づけ・価値判断する力（結果と過程、正しさと優しさなど、何を良しとするのか判断し、どう生きたいかを考えられること）③他者とつながる力（相手の気持ちを汲み取る、言葉にならない思いを感じ取る、対話を通して関係を作ること）④学び続ける力・変わり続ける力（失敗や変化を恐れず、アップデートし続けること）⑤創造する力（人間らしい発想）まとめると、「どう問い、どう意味づけ、どう人と関わるか」と答えてくれました。思わず最後に「ありがとう」と言っていました。確かに教育においても、受け身でなく主体的に学べることをめざしています。知識や技能を身に付けさせつつも、その学び方を学ぶことを大切にしています。考える力を育てています。人とのかかわりの中での学び合いを進めています。AIを利用しつつ、人間らしく生きていくことができる子を育てていきたいです。

今年度も残り少なくなりました。本校では、一年間、教員だけでなくいろいろな立場の職員が子どもたちのために仕事に励んでいます。給食調理員・補充員や栄養職員は、暑さ寒さが厳しい環境で美味しく安全な給食を作っています。子どもたちは、廊下や給食室前で「いつもありがとうございます」「おいしかったです。ごちそうさまでした」と感謝の気持ちを伝えています。用務職員は、朝の門に立ち、子どもたちを迎え入れ、挨拶を交わしながら見守っています。落ち葉掃きをしているとお手伝いをしてくれる子もいます。事務職員は、緊張気味に「連絡帳をください」と事務センターにやってくる子に丁寧に対応しています。学校司書、スクールカウンセラーとのかかわりを楽しみにしている子もいます。教員を支えてくれる事務支援員や理科支援員も貴重な存在です。できるだけ多くの大人の目で、そして愛情で、子どもたちの成長を支えています。教職員一丸となり、残りの日々もしっかり教育活動に取り組んでいきます。

※あっ、そうなの！「麻生区長寿日本一」（麻生区地域みまもり支援センターより）

寒い日が続きます。麻生区は、比較的感染症の発生が低く抑えられています。皆さんがそれぞれに気をつけてくださっているおかげだと思っています。それでも、寒い季節に気をつけたいことは、しっかり睡眠をとる、バランスの良い食事、手洗い・うがい、そして、身体を動かすことです。